

問い合わせ先
第二管区海上保安本部
海洋情報部海洋調査課長(及川)
TEL 022-363-0111 (内線 2530)

平成18年8月24日

金華山沖暖水塊誕生からまもなく1年

第二管区海上保安本部では、海上保安庁、気象庁、水産庁、各県水産試験場等が観測したデータ等を基に「二管区海洋速報」を月2回発行しています。

二管区海洋速報によると金華山沖に存在する暖水塊は引き続き勢力が強く、本州東方海域の海況に大きく影響しております。この暖水塊は昨年9月に金華山の遥か沖合いで黒潮から分離して発生し、その後約3ヶ月をかけて西へ移動し、昨年12月に金華山東南東方120海里付近に停滞し現在に至っております。

1 金華山沖で平成17年9月中旬に発生した直後の暖水塊及び同海域の平成18年7月中旬の衛星画像(NOAA)

図-1

常磐沖から金華山沖にかけて発生する暖水塊は、黒潮(統流)から分流した黒潮系暖水が黒潮から切離され、独立した右回りの渦を持った水塊となったもので、通常、日本海溝付近まで移動し、その後海溝沿いを北上し、千島列島沖で消滅します。この間、金華山沖、三陸沖、襟裳岬沖、釧路沖、色丹島沖の暖水塊と名前を変えていきます。

2 平成17年11月から平成18年8月にかけての暖水塊の動き

図-2

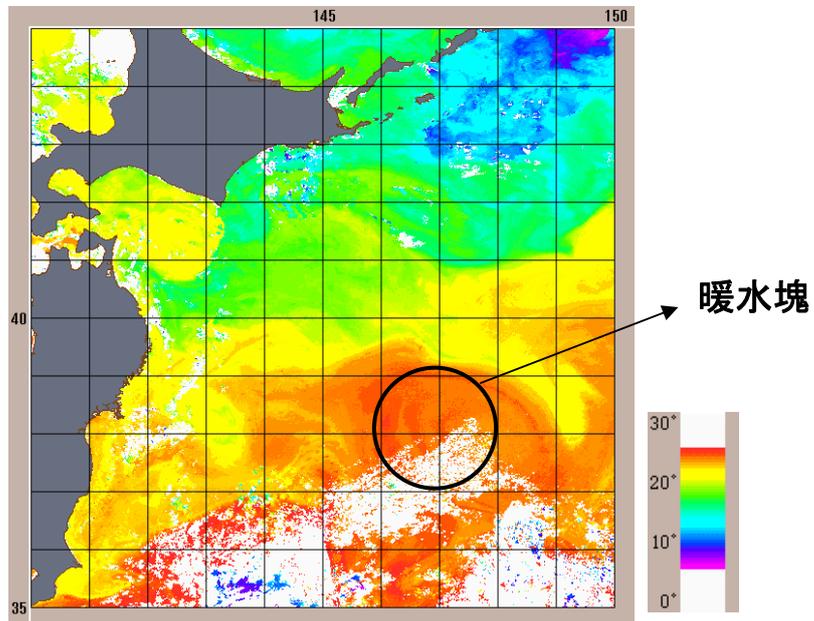
平成17年11月に金華山東方の北緯38度30分東経145度付近まで移動してきた暖水塊は更に西方へ移動し、平成17年12月に金華山東方の北緯38度東経143度30分付近で停滞し、勢力の強弱を繰返しながら現在もこの付近で停滞しております。

暖水塊の表示は、二管区海洋速報(平成10年(1998年)から現在まで)で表現しており、次のホームページに掲載しております。

<http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN2/kaisyo/sokuho/index.html>

図一 1

平成17年9月中旬に金華山沖で暖水塊が発生した直後の衛星画像 (NOAA)



平成18年7月中旬の衛星画像 (NOAA)

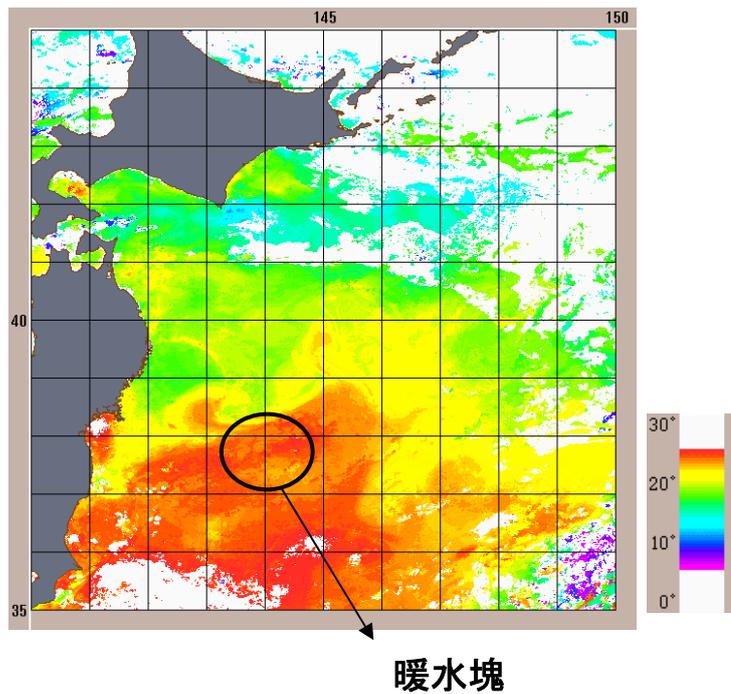


図-2

平成 17 年 11 月から平成 18 年 7 月にかけての暖水塊の動き

